

淀川水系委員会様へ

美しい河川目指して、淀川からの取水量の倍増を

淀川下流左岸からかつては相当の農業用水を取水していたが、現在は僅か取水しているに過ぎないようです。一方、大阪府のその都市河川沿岸などでは、河川水量が極めて少なく、感潮河川区間では、黒い水とともに、川からの嫌な臭いや、雨後に魚が浮き死んだり、河川環境改善が求められています。

現在、淀川から取水して河川の維持用水を取水（約 2 m^3 ）していますが、その水量を数倍（約 10 m^3 ）に増やせば、河川を流れる水量は増えて、河川環境が改善される期待があり、現実的な河川環境改善に効果が大きいと考えられます。

もちろん、淀川が渇水時には維持用水の制限・中止は当然だと考えられますがその他の日々に取り水量を倍増して、嫌な臭いの解消、魚が浮かない河川への改革を検討していただきたい。現在検討されている淀川整備計画に反映し、20年～30年かければ水環境は相当改善されることでしょう。美しいまちづくりの為に、関係者みなさんの英断を期待します。

2004年10月18日

箕面市 前川謙二